

目をこらして (4)



植え込みを掘り返した泥場（なんて言い方ありかな？）

で、だんごを作って遊んでいた時のこと。

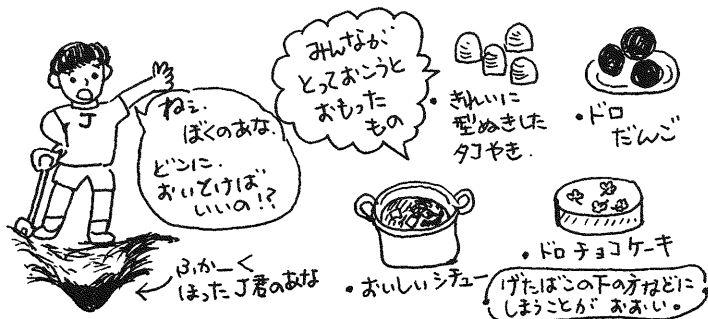
お弁当の時間が追って来たので、「もう片付けだから、とっておきたい物があつたら、こわれないようなところにおいておくといいよ。」と、その辺にいる子たちに呼びかけていると、J君が立ち上がって私にきいた。

「ぼくのあな、どこにおいとけばいいの？」

*

ちよつと頭が大きくて、駅の名前をととてもよく知っているJ君は、名言作りの名人。植物園で、木の間の道を通りながら、木を触って「これが、しょくぶつっていうものだ」と一人つぶやいたり……。

親子遠足に行った時のこと。昼食後の、のんびりしたひととき、ふと気がつくと、一人てくてくと歩いているJ君がいた。深緑の美しい木々に囲まれたその道は、どこまでも歩いてみたくなる道だった。私も、てくてく歩き出す。しばらく歩くと、J君に追いついた。二人で黙って歩く。右に曲がる角が見えてきた時、J君が言う。



絵と文 宮里暁美 (目黒区立ぶどう幼稚園)

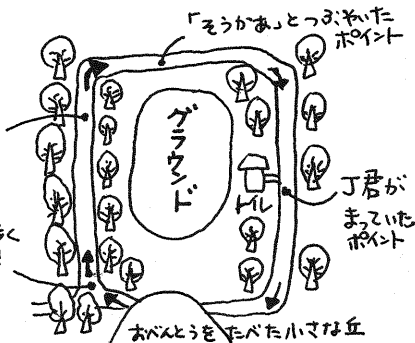


耳をすまして



「どうなるん
だろうと、
丁君がつか
いたポイント

一人でく々と歩く
丁君を発見!



「どうなってるんだろうねえ。」「どこまでも、どこまでも
行きたくなるんだよね」と私も言う。

角を曲がると、道は、午前中遊んだ広いグラウンドをぐる
り取り囲んでいたことがわかった。

「そうかあ。」と、つぶやく彼。

そうして、ぐるっと回つてもとのところに戻る途中、私
がトイレに寄る。「先に戻っていいよ」と言ったのに、
出てみると彼は手すりに寄りかかり下の草むらをのぞいた
りして待っていてくれた。私は、何だが久しぶりに恋人と
散歩しているような気持ちになった。

*

そんな風に、とびきりの時を共にしたことのある丁君の
一言。「ぼくのあな、どこにおいとけばいいの?」

その一言を聞いた瞬間の「!」という間。あれは、最高
の間だった。

子どもの言葉に耳をすます。

予想外の言葉に出合って、子どもの考えに触れて、一瞬
「!」と時が止まる。今日はいくつの「!」に出合った?